

築港・天保山エリア

度重なる中断がありながら、官民の力で近代港湾として築き上げ、また、国内初の公営路面電車が創業するなど、大阪の発展に大きく貢献した。

【アクセス】

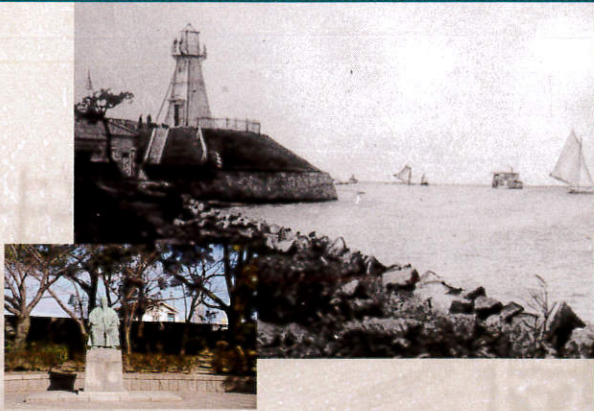
- 最寄地下鉄駅
地下鉄中央線「大阪港駅」
西改札2号・4号出口
- 最寄バス停
市バス60/88/72系統
「地下鉄大阪港」
「天保山ハーバービレッジ」
停留所



⑦ 築港大棧橋

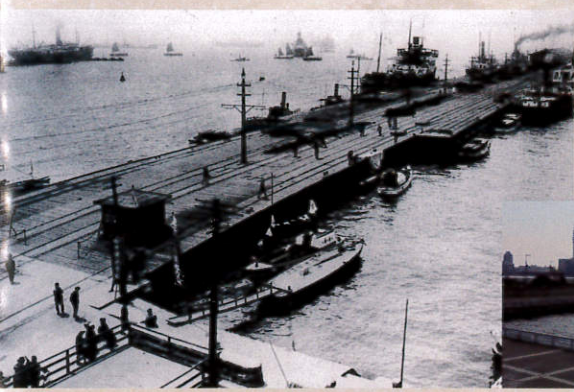
中央突堤

築港計画は、安治川尻と木津川尻から沖に向かつて二本の防波堤を築き、それに囲まれた陸側中央部に、長さ四百五十mの大棧橋と係船突堤を築造するものであった。その大棧橋は、明治三十六年八月に供用開始した(写真左)。その後の修築事業により、大型客船等の埠頭として供用していたが、船舶の大型化によりその役目を「天保山岸壁」に移すこととなった。



⑥ 天保山公園灯台

明治二十七年、天保山に改築設置された木造三層、六角形の灯台。幕末期には、外国艦船が沖合に現れたことなどから、軍事上の要衝の地として砲台が設置されていた(写真右)。現在は、標高四五三mの日本で二番目に低い山で、山頂には近代港湾の修築工事に尽力した初代大阪市築港事務所長「西村捨三」の像や明治三十一年の大坂築港起工式を記念した石碑「大阪築港基石」、「天保山跡碑」などがある。



⑨ 築港高野山

明治四十三年に創建された高野山真言宗準別格本山の「大阪築港高野山釈迦院」で、東の四天王寺、西の築港高野山と言われた。第二次世界大戦の大坂大空襲で焼失したが、昭和二十七年に現在の地で再建された。境内には「浪曲師の碑」が建立されている。



⑧ 大棧橋まで 運行していた 創業時の市電

築港大棧橋の完成により、そのアークセブとして、明治三十六年九月に西区九条町(花園橋西詰)から築港埠頭までの約5kmの間で国内初の公営路面電車として開通した。写真左は、開通当時の築港停留場と市電の風景。当時の停留場付近にある「天満屋ビル」は、大大阪時代を象徴するモダンな建築物で昭和十年に建てられた。



(写真提供者 山田昌次氏)

⑩ 旧住友倉庫

日清戦争後の不況や財政悪化により築港工事は中止されたが、大正三年に勃発した第一次世界大戦をきっかけに貨物の港湾利用の需要が高まり、民間事業者が埠頭の優先権を得るために市に代替施工を申し出する事業者が相次いだ。旧住友財閥もその手法を取り入れ、前面の岸壁の整備も併せて、物流貨物の倉庫として大正十二年に建設した(写真左)。現在は、当時の赤レンガ造りの外観を活かし、民間事業者によりクラシックカーミュージアムなどに活用されている。

